

林中だより

No. 320

平成30年1月23日発行
 厚木市立林中中学校
 厚木市林5丁目5番1号
 電話 046-224-4933
 E-mail: hayashi-js@edu.city.
 atsugi.kanagawa.jp

成年を迎えるにあたって

厚木市立林中中学校長 布川 茂

新年あけましておめでとうございます。旧年中は本校の教育活動にご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。昨年の世相が、「北」という漢字で表されています。朝鮮のミサイル発射や核実験の強行、九州北部豪雨、北海道産のじゃがいもの不作、北海道日本ハムの大谷翔平選手や清宮幸太郎選手、競馬キタサンブラックなどが選ばれた理由として挙げられています。朝鮮の動向や安定しない天候は、私たちの生活に不安を与えています。大谷選手のメジャーへの移籍や清宮選手のプロ野球の道への進路選択は、どこか夢を与えてくれる気がします。また、ウィンター競技での日本の若手選手の活躍は、平成30年2月9日から始まる「平昌オリンピック」での日本選手の活躍を大いに暗示させてくれます。

4月の始業式から、本年度は、「ALL OUT」の精神を持って何事にも取り組んでほしいということを全校生徒に語ってきました。「体育大会」「いなほ祭」「部活動」等で、本当に全校生徒が総力を上げて前向きに取り組んでくれたと喜んでます。結果が全てではありませんが、2学期の終業式後の表彰状の伝達では、ここ数年見られなかった数の生徒が壇上に立ち表彰状を受け取ることができました。ここで気を抜かず、生徒たちの頑張りでさらにより良い林中を創造して行ってほしいと願っています。

さて、本年度は「成年」です。成年には「勤勉な努力家」「守りの年」「お産に良い年」という意味があるようです。この意味を林中の皆さんにお願いするとしたら、まずは、「勤勉な努力家」という意味から、学習に力を入れ知識を蓄積して安定した学力を身につけてほしい年です。そして、「守りの年」「お産に良い年」という意味から、今の学校の状態を維持しつつも新しい何かを創造してスタートさせる年としてほしいと願っています。1月31日(水)には、新しい行事である「部活動対抗駅伝大会」が予定されています。それがひとつのきっかけになってくれればと思います。

最後になりますが、地域の方々には、中学生が何かとご迷惑をかけていることに関してお詫びするとともに、地域社会に貢献できるような生徒を育成することにも力を入れているつもりです。11月には、地域の方々をお願いして、緑ヶ丘小学校、林中中学校学校運営協議会、いわゆるコミュニティ・スクールを発足させました。学校運営に地域住民等の参画を促進し学校の応援団として協力していただくこと、生徒が地域社会でも少しでも貢献できるような活動を積極的に行っていくことをねらいとしています。地域の中にある学校です。互いに手を取りあって絆を深めていきたいと思っています。今年も何卒よろしくお祈りいたします。

これからの主な行事予定

- <1月>
 - 18日(木) 1年入沐・ケガ安全教室
 - 29日(月) 公立一般募集開始(31日まで)
 - 31日(水) 部活動対抗駅伝
- <2月>
 - 2日(金) 新入生保護者説明会
 - 5日(月) 1・2年授業参観・懇談会
 - 10日(土) 3年私立高校一般入試
 - 14日(水) ~16日(金) 公立高校共通選抜学力試験
 - 21日(水) ~22日(木) 3年学年末試験
 - 21日(水) ~23日(金) 1・2年学年末試験
 - 27日(火) 公立高校共通選抜合格発表



「働くこと」の意義

1学年主任 木村 聡

1学年では1月23日(月)に「職業講話」が実施されます。「職業講話」は3年間にわたる進路学習の一環として行われています。ここで、実際に職業に携わっている方々から、「働く」ということについてお話をいただき、2年生になると実際に仕事を体験する「職場体験」学習が企画されます。進路学習とは、生涯にわたってよりよく生きることができるよう能力や態度を身に付けることです。そのときに大切なことは、一人ひとりが自分自身を見つめ、自分の生き方について考え、将来に対する目的意識をもつことです。

10年後、20年後の自分がどのように生きているかを考えた時、具体的に自分はどのような職業についているかを考える人は多いのではないのでしょうか。

どのような仕事をするかは、その人の幸福感や充実感に直結するものです。しかし、自分がどのような仕事に携わるようになるかは、まだまだ先のことです。明確な形を成していません。しかし、それは視点を変えると、今の自分には多くの選択肢がある。これからどのようにでも、未来を切り拓いていけるということではないのでしょうか。そのような今だからこそ、中学生の自分は何をすべきなのか。「働く」ということはどういうことなのかを、今回の「職業講話」を通して生徒のみならずにはじっくりと考えてほしいと思っています。今回は、医療関係、販売関係、調理関係の方々に来てお話をさせていただきます。今から、とても楽しみです。

教育について

特別支援担当 和出 好生

障がいのある子どもを含むすべての児童の教育的ニーズにあった適切な教育を受ける権利を保障することです。すべての国民に、その能力に応じた教育を受ける権利を保障する。特に、障がいのある児童が社会参加に向け、一人一人の障がいの状態や個性に応じた指導や支援(特別支援教育)が必要」とある。

このように記事を書かせていただきました。インクルーシブ教育推進校として、第1期の入学生を受け入れた厚木市立林中中学校には、数名の入学生希望生徒がいます。

教育課程の工夫として、本校では以下の具体的な取り組みを推進しています。

- 通常の学級における複数教師による学習指導
 - 習熟度別・人数の学習指導
 - 特別教室を活用した個別学習 等
- 生徒の状況に応じた多様な形で学習活動を行うとしています。障がいのある生徒の学習評価は、特別支援教育で実施されている「個人内評価」も活用し、「個別教育計画」に基づき、生徒の状況等に応じて、一人一人に丁寧な指導を行った上で、学習評価が行われるということです。

昨年度に入学した卒業生と話す機会がありましたが、通常生徒と同じ教科書で学習し、試験も同じ問題で行われているようです。週に数回昇ソールームを活用した習熟度別の授業はあるようですが、やはり高校の学習には苦戦しているとのことでした。今後も追跡調査をして取り組みの成果を検証することが必要となると考えます。

今年の花月と書き初めしました!

本校中学校では、現在冬休みの課題の書き初めが教室に展示されており、新年の華やかな雰囲気を感じていただいています。それぞれが選んだ言葉は実にさまざまです。「みんな違ってみんないい」と感じられます。優秀作品は校長室前ギャラリーに展示してあります。来校の際には、是非ご覧ください。

